

全国漁業信用基金協会 三重支所

1. 三重県の紹介

三重県は、日本のほぼ中央にある紀伊半島の東部に位置し、「鷺」が羽を広げた形をしています。南北に約170km、東西には最大箇所約80kmある本県の面積は約5,777km²と、47都道府県の中では25番目の広さとなっています。また、東海及び近畿地方にまたがるため、南は和歌山県、西は奈良県、京都府、北は滋賀県、岐阜県、愛知県と1府5県に接しています。

総人口は約180万人であり、熊本県、鹿児島県、岡山県等と同規模ですが、他県と異なり、数万人～数十万人の人口を有する中規模の都市が、豊かな自然に囲まれるように県内に分散しており、地域ごとの特性を生かした生活圏が形成されています。

気候は、南北に長いうえ、平野部、盆地部、山地部があるため多様な地域気候を有し、地域ごとに季節や朝晩の気温差、降水量などに違いがあるものの、全国的にみて、温暖で過ごしやすいといわれています。

観光面では、伊勢志摩国立公園や熊野古道などの自然をはじめ、日本三大神宮の一つで、

県内では「お伊勢さん」として敬われている伊勢神宮、忍（しのび）の里として知られる伊賀上野、西日本最大規模のレジャーランドであるナガシマスパーランド、F1日本グランプリが開催される鈴鹿サーキットなど、バラエティに富んだスポットが点在し、温暖な気候とも相まって年齢や性別を隔てることなく、毎年、県外から多くの方が訪れています。

また、産業面では、県北部にトヨタ車体や本田技研工業などをはじめ、大企業の工場が多数あり、平成30年の工業製品出荷額では全国第9位となっています。一方、自然豊かな県南部では農林水産業が盛んであり、「伊勢茶」、「松阪牛」、「伊賀牛」、「伊勢えび」、「尾鷲檜」など、地名をブランドとしたものが多く生産されています。



伊勢神宮（写真提供：神宮司庁）



伊勢神宮（写真提供：神宮司庁）



松阪牛



伊勢志摩国立公園（英虞湾）



熊野古道
（写真提供：(一社)東紀州地域振興公社）

2. 三重県の水産業

1,140kmに及ぶ長い海岸線を有する三重県は、全国でも水産業が盛んな県の一つとして知られています。

木曾三川の恵み豊かな伊勢湾、離島や風光明媚で波静かなリアス式の入江が続く伊勢志摩地域、雄大な太平洋の黒潮おどる熊

野灘など変化に富む海域を持つ三重県では、古くから漁業や水産加工業などの水産業が発達し、沿岸地域で漁村が形成され、漁業・漁協は地域文化及び経済の根幹を成すものとして人々の暮らしを支えてきました。

現在でも、漁業は地域の基幹産業として重

要な位置にあり、水産加工業、流通業などの幅広い産業と密接に関連し、地域経済を支えています。その拠点となる漁村は国民の余暇活動の場となるなどして、私たちの健康で豊かな生活の実現のために直接、又は間接的に大きく貢献する非常に重要な役割を果たしています。

また、漁協は水産資源を持続的に利用するために、資源を守りつつ適正な漁獲を行う資源管理やつくり育てる漁業を推進し、漁業生産の安定を図るため、稚魚などの成育の場である藻場や干潟を整備する環境保全、漁場づくりを行い、豊かな海を次世代に継承するため様々な活動を行っています。

統計的にみますと、生産量は全国7位(R1) 151,309t、生産額全国10位(R1) 422億円の規模を誇っています。漁業経営体(H30)としては、3,178経営体が漁業に従事し、うち個人の経営体が96%を占めています。生産量(R1)は、海面漁業が130,988t、海面養殖業が20,321tで、海面漁業の漁業種別では、船びき網が19,021t(全国2位)、遠洋まぐろ延縄が3,289t(全国8位)、遠洋かつお一本

釣りが8,490t(全国2位)、中・小型まき網が64,010t(全国2位)、大型定置網が5,736t(全国12位)でありました。

また、漁種別の漁獲量(R1)では、まぐろ類8,706t(全国8位)で特にきはだ、びんながまぐろの漁獲が多く、かつお15,672t(全国4位)、いわし類41,627t(全国6位)、ぶり類2,712t(全国11位)、さば類50,038t(全国3位)、伊勢えび288t(全国1位)、さざえ465t(全国3位)でありました。

海面養殖業では、のり養殖業が8,322t(全国8位)、まだい類養殖業が3,809t(全国4位)、くろまぐろ養殖が1,390t(全国4位)、真珠養殖業が3,546kg(全国3位)でありました。



伊勢えび

生産額(R1)は、海面漁業が241億円、海面養殖業が181億円となっています。



養殖たい

3. 三重支所の概要

- 住所：津市広明町 323-1 水産会館内
- 担当理事：永富洋一（JF鳥羽磯部漁協 代表理事組合長）
- 担当監事：佐藤則夫（常勤）
- 会員数：604名（令和4年3月末）
- 出資総額：1,165百万円（同）
- 保証残高：8,913百万円（同）
- 職員数：3名

4. 三重支所の取組み

保証残高は昭和57年度末116億円をピークに、平成20年度末には50億円まで落ち込みましたが、緊急保証対策・漁船リース等国の補助事業の活用等により、令和3年度末には89億円まで回復しました。

一方、求償権残高は平成15年度末21億円をピークに、以降回収に努め、償却等を行った結果、令和3年度末には10.4億円と約1/2程度まで減少しました。

近年はコロナウイルスに関連した水産物

の需要減少に伴う魚価の低迷により、多くの漁業者が資金繰りに支障をきたす等非常に厳しい状況が続いております。

それに対処するため信漁連とともに長期運転資金を積極的に対応し、漁業者の円滑な金融支援に努めてきました。

引き続き県行政・関係機関等との連携を密にし、漁業者の支援に努めていきたいと考えております。